



■板野町

おそらく県内で最も大きな煙出し櫓ではないかと思う。『カマヤ（台所）』の屋根を含めると四層の楼閣のように見える。ちなみに『カマヤ』が家の正面から見て右側にある『右勝手』という間取りは、今回紹介する物件のなかではこの家だけだ。

阿波国 すきま 漫遊記

— 関東からの転入者による徳島再発見 —

VOL.10 煙出し櫓



▲吉野川市川島町

北側が道だと近くから観察できる場合もある。ここはわかりやすい場所なので、気付いている人も多いのではないかな。



▲吉野川市山川町

高越山系を背景にした美しい田園の風景。遠目にはまるで城の天守閣があるように見える。

立派な煙出し櫓は県内では主に藍農家の『カマヤ台所』の屋根に見られる。今回紹介する物件はいずれも母屋からカマヤが母屋から張り出した間取りであった。カマヤは家の裏手になるし、煙出しは母屋の大棟より低いので、家を裏側から見なければ発見できない。北側から写真を撮ることになるから逆

探してみよう

「うだつの町並みを歩く」といったタイトルのブログや観光ガイドは数えきれないくらいあるし、そのほとんどが『うだつ』について知りげに解説している。しかし同じ屋根飾りでも『煙出し櫓（むだしやぐら）』について書いた文章がほとんど存在しないのはどうしたことなのだろうか。今月は徳島の煙出し櫓の魅力を紹介しようと思う。

「煙出し」とはカマヤや囲炉裏の煙を抜くために屋根に作る換気口のことだ。その煙出しを裕福な家では櫓状に仕上げる。商家が富の象徴として『うだつ』をあげたのと同じように、農家にとつてのステータスシンボルが煙出し櫓なのだ。北陸地方では煙出し櫓のことを『うだつ櫓』とも呼ぶくらいだから、これはまさに富の象徴なのである。

煙出し櫓



▲阿波市阿波町

全体的に黒塗りで、城にたとえるなら松本城といったところか。周囲を藍寝床で囲まれているので遠くからしか見られない。



▲吉野川市川島町

二層部分が朱に塗られているのが特徴的。屋根の先でカールしているのは、蕨手型の『鳥衾（とりぶすま）』。鳥衾は東西の煙出し櫓に多く見られる。

光になりやすいのは困ったことだ。

立派な煙出し櫓が比較的集中しているのはうだつで有名な美馬市脇町だ。ここはひとつ『うだつの町並みを歩く』ではなく『うだつ櫓の町並みを歩く』というテーマで散策してみてもいいだろう。ここで紹介するのは、二層以上の煙出し櫓だが、一層の煙出しにも立派なものもある。『煙出し櫓観賞』はほとんど未開拓のジャンルだからきつと新しい発見があると思う。

うだつ櫓の町並みを歩く

煙出し櫓のある家を見ていくと明治以後の瓦葺きの農家が多いことがわかる。徳島の江戸期の裕福な農家の典型的様式は、寄棟の草葺き屋根に本瓦葺きの庇を巡らした『四方蓋造り』である。四方蓋造りでは大棟に煙出しがなく、気抜きが必要となるカマヤは瓦葺きの庇部分に配置されている。江戸時代には農家が屋根全体を瓦葺きにすることは禁止されていたので、裕福な農家は庇屋根の部分の瓦葺きに贅をこらしたのだらう。そして明治になり、総瓦葺きの二階建てを自由に建てられるようになっても、相変わらずカマヤの屋根の装飾を競ったのが徳島の煙出し櫓の成り立ちなのではないかな。などと想像をたくましくしてみる。



◀正面から見るとシンメトリ的な構成がユーラスだ。

▲脇町北庄地区には多くの煙出し櫓が残っている。



▲煙出しの小屋根の棟の向きが、カマヤの棟と直交している珍しい付き方だ。



▲新築住宅でも煙出し櫓を上げていた家があった。しかも銅板葺き。

▶こんな狭い路地の奥にも人知れず煙出し櫓があったりする。



深草 縁夫

関東出身・徳島在住のサラリーマン。2000年からサイト『日本すきま漫遊記』を開設・公開。日本各地の寺・神社を中心として、一般には大々的に取りだたされることのないようなマイナー観光スポットをめぐる紹介している。 ■日本すきま漫遊記 <http://www.sukima.com>